

新入生のための 最初に読む本



佐藤編著

『大学生のための知的技法入門
(アカデミック・スキルズ) 第2版』
慶應義塾大学出版会, 2012年, 002.7|Sa

大学での学習は、講義を聞き課題をこなすだけでは不十分。なのに先生たちはなかなか学び方を教えてくれません。この本を読むと、先生たちが「黙っていても学生が自発的にやってくれるはず／やるべきだ」と期待していることが何なのか、理解できるかもしれません。

奥村晴彦・森本尚之

『第3版 基礎からわかる
情報リテラシー』
技術評論社, 2017年, 007.6|O

パソコンは普通に使ってるけど、自信があるってほどでもない。自分の知識のあいまいな部分をはっきりさせ、用語やしくみを正確に理解するための導入におすすめの本。メールのマナーなど、コミュニケーションに関わるアドバイスも書かれています。

アドラー, M.J.・ドーレン, C.V.

『本を読む本』
外山滋比古・横末知子訳,
講談社, 1997年, 019|A

本を読みなさいって言う大人たちは、つまり何をしてほしいんだろう。「読んで理解する」とはどういうことか、どうなれば身についたといえるのか、読書法を解説する古典本。本を読んで発表するゼミが苦手な人にもおすすめします。

エコ, U.

『論文作法』谷口勇訳,
而立書房, 1991年, 801.6|E

小説『薔薇の名前』でも有名な記号論学者エコによる指南書。人文系の学生を主な読者に想定して書かれており、論文に対する態度や、といった研究の姿勢に関する部分を言葉を尽くして解説しているので、気持ちは問題でスムーズに執筆にとりかかれず悩んでいる方におすすめします。

澤田昭夫

『論文の書き方』
講談社, 1977年, 学S 816.5|Sa

このジャンルの本としては古典です。パソコンとネットの時代の感覚にはちょっと合わない部分もあるけれど、読み書きにかかる基本的な技術に関して、今も十分通用するアドバイスが書かれています。特に他の参考書で扱われることが多い「読み方」の解説が詳しいところがおすすめ。文献講読の授業で発表者になったとき、はずしちゃいけないポイントがわかります。

野矢茂樹

『論理トトレーニング』
産業図書, 2006年, 116|N

みなさんが数学で学んできた「論理」を、実践の場で「論理的に考える」ことに結びつけてくれる本。言語的説明が論理的だとかそうじゃないとか言うとき、判断の根拠になるルールは何なのか、練習問題を解きつつ学ぶことができます。

佐藤編著

『大学生のための知的技法入門
(アカデミック・スキルズ) 第2版』
慶應義塾大学出版会, 2012年, 002.7|Sa

大学での学習は、講義を聞き課題をこなすだけでは不十分。なのに先生たちはなかなか学び方を教えてくれません。この本を読むと、先生たちが「黙っていても学生が自発的にやってくれるはず／やるべきだ」と期待していることが何なのか、理解できるかもしれません。

奥村晴彦・森本尚之

『第3版 基礎からわかる
情報リテラシー』
技術評論社, 2017年, 007.6|O

パソコンは普通に使ってるけど、自信があるってほどでもない。自分の知識のあいまいな部分をはっきりさせ、用語やしくみを正確に理解するための導入におすすめの本。メールのマナーなど、コミュニケーションに関わるアドバイスも書かれています。

アドラー, M.J.・ドーレン, C.V.

『本を読む本』
外山滋比古・横末知子訳,
講談社, 1997年, 019|A

本を読みなさいって言う大人たちは、つまり何をしてほしいんだろう。「読んで理解する」とはどういうことか、どうなれば身についたといえるのか、読書法を解説する古典本。本を読んで発表するゼミが苦手な人にもおすすめします。

エコ, U.

『論文作法』谷口勇訳,
而立書房, 1991年, 801.6|E

小説『薔薇の名前』でも有名な記号論学者エコによる指南書。人文系の学生を主な読者に想定して書かれており、論文に対する態度や、といった研究の姿勢に関する部分を言葉を尽くして解説しているので、気持ちは問題でスムーズに執筆にとりかかれず悩んでいる方におすすめします。

澤田昭夫

『論文の書き方』
講談社, 1977年, 学S 816.5|Sa

このジャンルの本としては古典です。パソコンとネットの時代の感覚にはちょっと合わない部分もあるけれど、読み書きにかかる基本的な技術に関して、今も十分通用するアドバイスが書かれています。特に他の参考書で扱われることが多い「読み方」の解説が詳しいところがおすすめ。文献講読の授業で発表者になったとき、はずしちゃいけないポイントがわかります。

野矢茂樹

『論理トトレーニング』
産業図書, 2006年, 116|N

みなさんが数学で学んできた「論理」を、実践の場で「論理的に考える」ことに結びつけてくれる本。言語的説明が論理的だとかそうじゃないとか言うとき、判断の根拠になるルールは何なのか、練習問題を解きつつ学ぶことができます。

アカデミックコミュニケーション

自分の考え方を、レポートやプレゼンの形で伝えるにはどうしたらいいのか知りたい人へ。

身延庄士郎『新版 理系のための
レポート・論文完全ナビ』
講談社, 2016年, 407|M|

レポートの中でも特に実験レポートの解説が充実した本です。「わかりやすい」文章にも種類がありますが、この本を読むと、レポートやその他の実務的文章に求められるタイプの「わかりやすさ」の条件を、表現と構造の両方から理解することができます。

櫻田大造『「優」をあげたくなる
答案・レポートの作成術』
講談社, 2008年, S 816.5|Sa

「あんまりがんばらずに、でもうまくやりたい」人のための本。そして「どうすればいいんだ?」より「なんのためにやらなきゃいけないんだ?」で悩んでいる人のための本。教員がレポートを評価する際に何を見ているのかもざっくり把握できるので、対策を立てて課題に臨むことができるでしょう。

佐渡島沙織・他『これから研究を
書くひとのためのガイドブック』
ひつじ書房, 2008年, 816.5|Sa

教科書として利用することを想定して構成されているため、論文・レポート執筆に必要な知識が一定のサイズのセクションに分割されていること、セクションごとに練習問題がついていることが特徴。毎日分量を決め、参考書で勉強するように学習を進みたい方におすすめです。

英語のライティング本

英語で書きたい・レポートの書き方を英語で学びたい人へ。

比較的読みやすい洋書の中から、英作文一般を扱う本と、アカデミック・ライティングに絞って論じているものとを紹介しています。

アカデミック・ライティングの作文ルールにおいて、使用言語による違いはそれほど大きくありません。英語でレポートを書かなければならぬ人はもちろん、使用言語は日本語だけだ大学式の書き方を英語で学んでみたいという人も、ぜひ気軽に「英語の本」を手に取ってください!

Zinsser, W.
On Writing Well: The Classic Guide to Writing Nonfiction
HarperCollins Publishers, 2006, 836.2|Z

英語で「事実」を記述するにはどうすればいいか、ジャーナリズムを背景にもつ著者が解説した本です。1976年出版なのでちょっと古典ですし、アカデミック・ライティングのルールとは少しぶつかる部分があります。英語圏でよく読まれている本を使って英作文のことを考えてみたいひとにおすすめ。

Barnet, S., Bellanca, P., Stubbs, M.
A Short Guide to College Writing
Pearson Education, 2013, 836.5|B

レポート・論文作成の作業プロセスに沿って、すべきことを説明してくれる本。白紙を前に何も思いつかない人のために、着想・アイディアのふくらませ方から出発しています。論文がどのように構築されるかを学べるので、書くとき(組立)だけではなく、読むとき(分解)にも役立つ知識が身に付きます。

酒井聰樹

『これからレポート・卒論を
書く若者のために第2版』
共立出版, 2017年, 816.5|Sa

実例の豊富さが特徴。良い例だけでなく悪い例も提示し、それを訂正することで適切な対応を示しているので、「なぜだかよくわからないけど良い評価がもらえない」と悩んでいる方におすすめです。また、構成(もくじ)が体系的に組まれておらず、レポート作成の作業中に参照する場合、目的の場所をみつけやすくて便利。

菊田千春・北林利治
『大学生のための論理的に
書き方・プレゼンする技術』
東洋経済新報社, 2006年, 816.5|Ki

「はじめてのプレゼン! スライドの作り方とか以前に何から始めていいのかわからない!」という人におすすめ。レポートとプレゼンを比較しながら紹介している本なので、アカデミックな論証の作り方を学びつつ、それを表現する際に、表現の手段に合わせてどこをどう変える必要があるのか理解することができます。

Allen, K.
『スタディスキルズ』伊藤俊洋監修,
丸善株式会社, 2005年, 407|A

対人スキル、たとえば他者の研究発表に対する適切なフィードバックの態度や、効果的な自己主張のしかたを説明する本は多くありません。この本のメインインターフェースは大学生なので、自分には関係ないと感じる部分もあるかもしれません、共同でレポートを作成したり、発表準備をしたりする前に目を通してみてください。

Taylor, G.
A Student's Writing Guide: How to Plan and Write Successful Essays
Cambridge University Press 2009, 807|T

章ごとに目標が明示され、講義を聞くように自習を進められる本です。単に「何をしなければならないか」を示すのではなく、「なぜそれをしなければならないか」「どうしてそういうことになるのか」という原理の説明が分厚いのが特徴。

Turabian, K. L.
A Manual for Writers
The University of Chicago Press, 2007, 836.5|T

正しく引用しないと剽窃になる可能性がある、と知っているけど、英文レポートの場合どうしたらいいのかは全然わからないぞ、というときはこの本で調べられます。パート1では研究の文脈で自分の興味を説明するにはどうすればいいのか丁寧に解説されているので、自分のアイディアを提示する方法とそのとき用いるべき語彙をあわせて勉強するのに役立ちます。



ライティング関連図書コーナーの本は貸出できません。館外で利用したい場合は、別の階に貸出用が用意してあるので、探してみてくださいね。

